

実験動物の年間販売数調査

(令和4(2022)年4月～令和5(2023)年3月の販売数)

はじめに

本調査は、実験動物販売数量の経時的把握を目的に、昭和60年度から3年度毎に行い、今回で13回目になります。

調査方法は前回と同様で、①当協会(日動協)と日本実験動物協同組合(実動協)の会員及び会員以外で実験動物を生産・販売していると思われる者並びに大学、公的法人で実験動物を生産、販売(供給)していると思われる者の計29者を対象に、②令和4年4月から令和5年3月までの1年間に、③実験動物のユーザーに対し、直接、生産販売(供給)、仕入れ販売、輸入販売した実験動物数を、アンケート調査方式で把握しました。調査票は郵送し、販売(供給)実績のない場合も、その旨回答をお願いしました。

調査対象

調査対象は、日動協会員19者(うち、14者は実動協組合員)、実動協組合員19者(うち、14者は日動協会員)、大学の動物実験施設2者、その他の公的法人1者及び日動協、実動協に属さない2者の計29者です。うち29者から有効回答があり、このうち26者について実験動物の販売(供給)実績がありました。

アンケートの回答状況

区分	調査票送付者(A)	回答者(B)	Bのうち販売(供給)実績のある者	回答率(B/A)%
日動協、実動協	24	24	23	100
大学、公的法人等	3	3	2	100
その他	2	2	1	100
	29	29	26	計

アンケート調査対象数の推移

年度 西暦	S60 1985	S63 1988	H3 1991	H7 1995	H10 1998	H13 2001	H16 2004	H19 2007	H22 2010	H25 2013	H28 2016	H31 2019	R4 2022
調査依頼	81	87	66	65	57	52	66	52	44	44	45	38	29
有効回答	64	68	52	57	54	49	64	52	44	43	42	37	29
実績あり	60	56	45	49	44	43	40	44	44	39	36	33	26

調査結果掲載の「LABIO 21」のNo.	10	23	35	46	58	70	82	91
-----------------------	----	----	----	----	----	----	----	----

* 「LABIO 21」は日動協の情報誌で定期購読ができます。

* 日動協のHPでも公表しています。

調査結果概要

調査依頼者は、S60年度(第1回)調査の81者から今回R4年度の29者へこの37年間で約1/3になり、実験動物の販売(供給)実績のある者も60者から26者へと同様の傾向です。

動物種毎に見ると、販売(供給)数はハムスター・ヤギ以外の全ての動物種で減少しています。マウスは最多であったS63年度(939万匹)の約1/3(259万匹)にまで、ラットは同H3年度(380万匹)の13%(48万匹)にまで、モルモットは同H10年度(535千匹)の9%(46千匹)にまで、ウサギは同S60年度(334千匹)の9%(29千匹)にまで、イヌは同H3年度(39千頭)の8%(3千頭)にまで、また、ネコは同S60年度(114百匹)の2%(2百匹)にまで、各々減少しています。そして、減少傾向は今回の調査でも引き続いています。

一方、サル類はS60年度から減少傾向にあったものの、H10年度を底に増加に転じましたが、H19年度を頭に再度減少に転じ、今回は2,000頭を割り1,843頭でした。なお、展示用も含めた輸入頭数(下欄参照)は、今回(R4年1-12月)5,386頭となり、前回H31年度と同様、本調査頭数との乖離(3,543頭)がありました。これは、ユーザーの直接輸入及び本調査先以外からの購入が多数あることに起因すると思われます。

ブタはS60年度から増加しH10年度を頭に減少に転じ、そしてH19年度を底に増加に転じましたが、今回の調査では減少し4,257頭でした。

遺伝学的区分別(クローズドコロニー、近交系等)に見ると、マウスではクローズドコロニー、近交系とミュータント系で96%、ラットではクローズドコロニーが92%を占め、この傾向は前回H31年度と同様でした。

微生物統御区分別(コンベンショナル、クリーン、SPF)に見ると、マウス、ラット、モルモット、ハムスター類では、SPFが概ね100%でした。

参考

サル類の輸入頭数

サルはH17年7月1日以降、試験、研究及び展示用以外は輸入禁止となり、輸入頭数は、毎年、農水省の動物検疫所が公表しています。(動物検疫年報(1-12月))

H19年:7,464頭、22年:5,820頭、25年:5,215頭、28年:5,834頭

31年:4,885頭、R4年:5,386頭

* 検疫施設からの解放頭数。R4年は速報値。

資料 1 実験動物販売数 (R4(2022)年度)

表 1-1 実験動物販売数総括表

匹、頭

動物種	コンベン ショナル	クリーン	SPF	合計 (対前回比)		参 考		
						H31年度計	最大値	年度
マウス								
クローズドコロニー	0	12	794,901	794,913	(0.81)	987,463		
近交系	0	0	1,449,007	1,449,007	(0.93)	1,559,350		
交雑群	0	0	67,472	67,472	(0.71)	95,074		
ミュータント系	0	0	230,409	230,409	(0.75)	308,284		
コンジュニック系	0	0	2,403	2,403	(113.4)	2,119		
遺伝子改変	0	0	41,795	41,795	(121.2)	34,485		
マウス計	0	12	2,585,987 (0.87)	2,585,999	(0.87)	2,986,775	9,389,912	S63
ラット								
クローズドコロニー	0	0	442,963	442,963	(0.77)	578,592		
近交系	0	0	30,654	30,654	(0.74)	41,429		
交雑群	0	0	183	183	(-)	0		
ミュータント系	0	0	9,012	9,012	(0.37)	24,607		
遺伝子改変	0	0	74	74	(-)	-		
ラット計	0	0	482,886 (0.75)	482,886	(0.75)	644,628	3,801,348	H3
モルモット	0	0	45,605 (0.86)	45,605	(0.86)	53,666	534,833	H10
ハムスター類	0	0	20,022 (3.40)	20,022	(3.40)	5,887	82,510	H10
その他のげっ歯類	0	0	322	322	(0.30)	1,057		
ウサギ	849 (3.49)	9,046 (0.65)	19,105 (1.00)	29,000	(0.87)	33,381	333,824	S60
イヌ	3,189	0	0	3,189	(0.93)	3,435	38,915	H3
ネコ	192	0	0	192	(0.59)	323	11,415	S60
サル類	1,843	0	0	1,843	(0.79)	2,320	3,462	H19
ブタ	1,019	58	3,180	4,257	(0.84)	5,085	3,199	H28
ヤギ	11	0	0	11	(2.75)	4	84	H10
綿羊	0	0	0	0	(-)	0	66	H10
鳥類	169	0	877	1,046	(0.62)	1,689	44,830	S63
種鶏卵	19,863	0	2,630	22,493	(0.57)	39,304	1,053,479	H3
その他の動物種	哺乳類 128 哺乳類以外 1,493	14 0	7 0	149 1,493	(0.85) (0.57)	175 2,619	4,469 26,557	H10 H13

(注) 1. () 内は対前回比 (H31年度比)。

2. マウス、ラットのSPFには無菌動物を含む。

3. その他のげっ歯類はスナネズミ。

4. その他の動物種の哺乳類はunksとフェレット。

5. 右欄の「最大値 年度」とは、これまでの調査で最大数となった年度とその匹数、頭数。